

大津 歴博 だより

平成21年度
新収蔵品展

2010
No.79

4月27日(火)～6月6日(日) 休館日:4/30、5/6・10・17・24・31



紀樺亭 毘沙門天像



大津絵十種木偶型首人形



大津・京都間道造絵図

歴史博物館では、市内を中心とした様々な方から寄贈・寄託を受けることによって、もしくは資料購入によって、収蔵品の充実を行い、常設展示・企画展示に活用しています。本展では、平成21年度に新たに収集した資料をお披露目します。いずれも大津の歴史を知るうえで貴重な資料ばかりです。



大津市歴史博物館

平成二十一年度

歴史博物館新収蔵品の紹介

購入資料

1 大津絵図帖型紙 一括(二〇〇枚)

大津絵の合羽刷りに用いられる型紙で、図柄から、大正九年(一九二〇)、京都のたるま屋から発行された多色刷りの木版画帖「大津絵図帖」のものであることが分かる。

2 紀樞亭 毘沙門天像(二七九二) 一幅

与謝蕪村の弟子・紀樞亭が毘沙門天像を描くのは珍しい。毘沙門亀甲縹文甲冑は、いかにも武神の姿だが、顔の表情は財宝神としての福々しさがにじみ出ている。

3 大津・京都間道造絵図(一八〇四) 一巻

全長十六メートルの巻物に、大津・京都間車石敷設工事の詳細が描かれている。これによると全区間に車石が敷設されたのではなく、車の轍に割り石を埋めて補修するという工法もとられたことが分かる。

4 紀樞亭 瀧深山家図 一幅

山水図。崖に張り付く山家と、それを結ぶ山道の様子がいかにも親しみやすく描かれている。落款や画風から、寛政年間(十八世紀末)、紀樞亭が大津に移り住んだ時期の制作と考えられる。

受贈資料

1 大津絵十種木偶型首人形 二点

2 木版大津絵矢の根団扇 一点

草津市・斎藤文雄氏寄贈

大津絵の代表的な画題十種の土人形。かつて、

本市の土産物として好評を博したが、昭和四十年

頃には生産中止となった。大津市の観光の歴史を語る貴重な民俗資料である。また団扇は、「大津絵図帖」を転用して当時贈答用として作られたもの。

3 五言絶句 杉浦重剛筆 一幅

大阪市・阿原靖子氏寄贈
杉浦重剛(一八五五〜一九二四)は、膳所出身の教育者で、雑誌「日本人」を発刊、後に第一回衆議院議員選挙に当選。本作は、西行法師の漢詩・五言絶句を書いたもの。

4 杉浦重剛書簡 永元愿感宛 一通

大津市・岡角智次氏寄贈
宛先の永元愿感は、杉浦重剛と同じ膳所の出身で、当時ジャーナリストとして活躍した人物。

5 国策湯丹保 一点

大津市・武内正氏寄贈
戦時中、金属の供出にとまって多くの生活物資が陶磁器で作られた「代用品」。湯たんぼの表面に「国策湯丹保」と記されている。

6 軍事郵便他絵葉書 三十一枚

大津市・戸川義治氏寄贈
絵葉書の図柄は、日本の故郷や家族を思い出させるような郷愁を誘うものになっているのが興味深い。

7 河田小龍 松下寒山拾得図 一面

大津市・三品芙美氏寄贈
作者の河田小龍(一八二四〜一九八)は、土佐藩士で絵師。また坂本龍馬を啓発した知識人としても知られる。琵琶湖疏水図を描くなど、大津にもゆかりが深い。

8 楠正成・正行桜井別れの図 二曲一隻

大津市・松田孫康氏寄贈
瀬田尋常高等小学校の、講堂の正面の両側に、

中江藤樹と母の再会図とともに掲げられていた。戦時中の「忠孝」教育の様子を伝える貴重な資料。

9 近江八景湖水名所図絵 一紙

10 瀬田尋常高等小学校絵葉書 一枚

大津市・久保貞雄氏寄贈
9は明治二十九年(一九〇六)の出版。蒸気船が浮かび、瀬田唐橋の北側(画面右手)に東海道線の鉄橋を描くなど、近代の息吹が伝わってくる。また10は右手建物の屋根上に、今も瀬田小学校に保管されている旧膳所城の鯉瓦がわずかに見える。

11 清水家資料 十二点

大津市・清水良一氏寄贈
大正十一年(一九二二)に実施された第一回国勢調査の記念帳や昭和初年の大津市勢要覧、戦時中の衣料切符など。

12 大津陸軍少年飛行兵学校資料 六点

京都市・中川義男氏寄贈
戦時中、現大津商業高校敷地内に設置されていた少年飛行兵学校関係の資料。出征の際に贈られる日の丸の寄せ書きや訓練風景写真など。

13 伊藤家第二次世界大戦戦時資料 二一四件

大津市・伊藤元彦氏寄贈
戦時中の町内会の回覧板や衣料切符、大日本国防婦人会関係などの資料が含まれている。

14 兵隊人形 一個

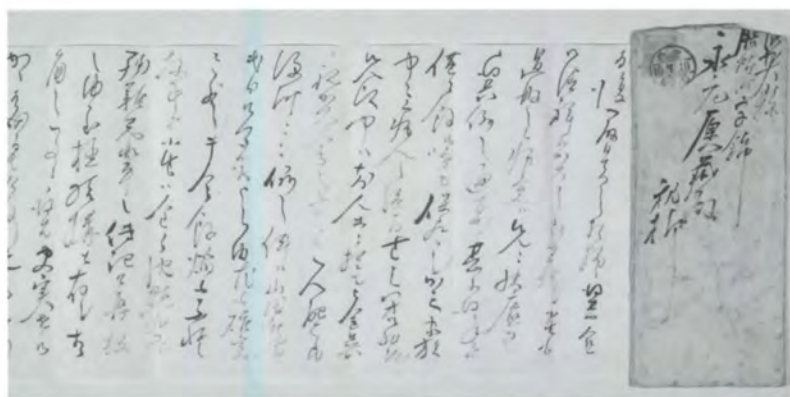
大津市・個人寄贈
像高は約一〇センチと小さい。陸軍の兵隊をかたどった土人形。戦時中の子供の生活を知る恰好の資料といえる。



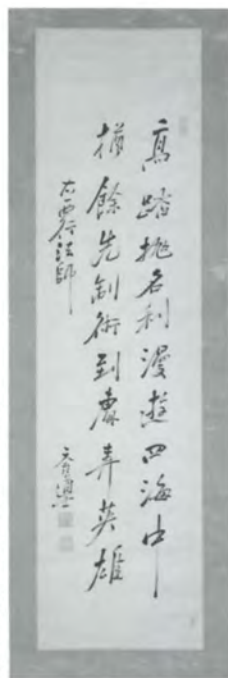
受贈2 木版大津絵矢の根団扇



購入1 大津絵図帖型紙



受贈4 杉浦重剛書簡 永元愿蔵宛



受贈3 五言絶句 杉浦重剛筆



受贈5 国策湯丹保



受贈6 軍事郵便他絵葉書

購入4 紀樺亭 瀧溪山家図



受贈7 河田小龍 松下寒山拾得図



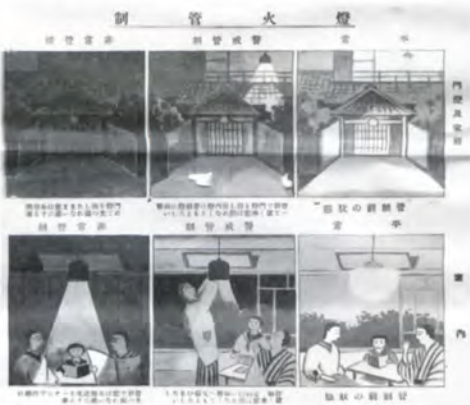
受贈14 兵隊人形



受贈8 楠正成・正行桜井別れの図



受贈11 清水家資料



受贈13 伊藤家第二次世界大戦戦時資料



受贈12 大津陸軍少年飛行兵学校資料

ミニ企画展

「紀楳亭没後二百年特集

「九老ワールド」

平成二十二年六月八日(火)～七月十九日(祝・月)

江戸時代、寛政年間の初めから文化年間のなかば、西暦では一七八九年から一八一〇年の間、ユニークな画家が天津で活躍したことをご存知でしょうか。その名は紀楳亭(一七三四～一八一〇、別号は九老)。名前を見て、まず、どう読むのだろうか、と思うのが自然でしょう。紀楳亭(きびい)きばいとい、と読むのですが、多くの方々にとっては耳慣れない画家名でしょう。しかし、彼の作品は海外の美術館や個人コレクターにも收藏されているのです。

それもそのはず、彼は、江戸時代の十八世紀に、俳諧中興の立役者として詩的な発句で名声の高い与謝蕪村の弟子なのです。蕪村は、当時、新風をもたらしていた絵画スタイルであった文人画の確立者としても著名でした。楳亭も、蕪村風でありながら、彼の人間味がさらに加わった文人画作品を描き、人々に愛されていたことが、天津に残された多くの作品から判明します。

楳亭は、もともと京都で活動していたものの、天明の京都大火(一七八八)で罹災して、現在の浜天津近くに身を寄せ、亡くなるまでの二十年あまりを天津で過ごしました。京都時代は、文人画家の気負いもあってか蕪村風や中国風の山水図をもつばら描いていましたが、移住後は、商都天津に立ち並ぶ米商や両替商らの後援者に、縁起の良い吉祥物や、溫和でのどかな山水画、そして軽妙な俳画を描いて好評を博したようです。湖南の穏やかな風光や、気さくな人々たちとの交遊が、彼の作風にも影響を与えたのでしょう。特に、彼の人物・動物表現は、現代日本の漫画にも通じる親しみやすさや、コミカルな表情をみせる点で、非常に面白さと斬新さを感じさせる絵画です。同時に、えもいわれぬにこやかな表情をたたえる作品の数々は、見る者

に幸福をもたらすかのようで、吉祥画・縁起物作品の画家としても人気があったのでしょう。そして、それは俳句においても同様でした。彼の俳句が、日常生活のひとつコマやさりげない気持ちを描写してとても共感が湧く俳風なのでいくつか紹介しておきましょう(冬の時期の書状群から抜粋)。

- ・ 同じ雪 京と天津や 裏表
- ・ 杓も取らず 雪をつまんで 手洗いせん
- ・ 上着ひとつ 着替えてこけん 今朝の雪
- ・ 小声なる 船行違ふ 雪の暮
- ・ 鹿の寝た 跡は霜なき 落葉哉
- ・ くさぐさと どこえも這入 雪のつへ

湖南・天津の地で画俳ともに愛すべき作品を残して、彼は享年七十七歳、文化七年七月七日の七尽して亡くなりました。それにちなんで、彼の命日を挟んで、この度のミニ企画展は、七十七点の作品を前期(六月八日～二十七日)・後期(六月二十九日～七月十九日)の入れ替えて展示いたします。

休館日：月曜日(七月十九日は開館)



芭蕉句飛鴉図・井口菊二書 天津・個人蔵



由良之助遊図・井口菊二賛 天津・個人蔵



蜀棧道圖 大津市歴史博物館蔵



柳陰納涼圖 大津・個人蔵



大津三社圖 大津・元会所町蔵



秋野双狼圖 大津市歴史博物館蔵・茂呂利根氏寄贈

大津歴博だより No.79
平成22年4月27日

大津市歴史博物館
〒520-0037 大津市御陵町2-2 ☎(077) 521-2100
ホームページ <http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp>